

# USMLE受験から考える

## 外科医のキャリアパス

相馬 大輝

初めまして。平成二十四年度卒、卒業五年目、入局三年目の相馬大輝と申します。今回留学レポートという形でUSMLEについて書く機会を頂きました。本来なら既に留学されている先生方が書くべきところ、免許をとっただけの身でレポートとはおこがましいですが、私の体験を共有することに少しでも価値があるならと思い筆を取らせていただきました。

USMLEというのは米国の医師免許です。日本の国試に相当する三種類の試験に合格すると取得することができます。詳細な説明はインターネットに譲ります。今回は何故私がUSMLEを取ろうと思ったのか、USMLEを取った後にどんなキャリアパスが描けるのか、に関して私見を述べさせていただきます。

私がUSMLEを取った動機は米国で働いてみたい、という単純なものでした。もちろん、移植症例数の多い米国なら日本よりも早く臨床経験が積めるため、という医師として真なる理由もあります。しかし当初の理由は長い人生のある時期を海外で働くのも楽しそうだなと思ったことがきっかけでした。加えて、医学生時代の私は少々天真爛漫なところがありまして、見学と講義だけのポリクリ、具体的な経験症例や到達目標などほとんど決まっておらず、「どんな研修を送るか、それは君次第！」と平気で謳っている呑気な研修プログラムばかりの初期研修を経て、先輩に誘われた飲み会で入局宣言して長い医師人生を決めてしまうのはあまりにももったいないと考えました。

いざ米国で医師として働く道を探すと、渡米して様々な道を歩む多くの先輩方の体験談を見聞きしました。中でも外科医として齢三十を超えて米

国に渡り今はそれぞれコロンビア大学移植外科教授、ハワイ大学外科教授をされている加藤友朗先生、町淳二先生とお話しさせて頂き、先生方の考えに感化され、その生き方に憧れてしまいました。実際には華々しい経歴を送った先生方の陰に途中で挫折していった先生方が何十人といえるのでしょうか、挑戦する前から心配しても仕様がありません。表向き劇的な人生は常に困難にまみれ失敗と隣り合わせでしょうが、失敗を恐れて途中で諦めてしまう人にはゴールの感動は味わえません。人生は一度きり、自分のキャリアを自分で選ぶならこの道しかないと感じました。

当時の私にはそもそも日本で何年研修したら外科医として独立できるのかも、何年目までのくらいの収入があるのかもわかりませんでした。先輩方とお話しさせて頂いていただいても結局最後は教授が決めるから、医局の事情があるからねと諭されたことしかありません。ならば自分にはこういうキャリアパスがあるからこういう研修が積みたい、ここに行きたい、私がそうなった結果、皆さんにこれをフィードバックできる。自分の未来をプレゼンすればいいじゃないか。自分がどう働きどう生きるのかを他人任せにして人生設計なんてできっこない。先行き不透明なのは日本で働いても海外で働いても一緒じゃないか。そう感じて私は海外で医者をしてみようと思いついたわけでした。思い立ってから早五年、USMLEを取得するまでに費やした費用と時間は膨大です。気づけば二十八歳、独身。唯一の心配はこの時期に渡米して還暦を迎えた両親の顔を見せることができるのかどうかです。幸いまだ健康です。あと十年後には達成したいものです。この時期に臨床留学することが最善なのかどうか、前例に乏しく先行き不透明ですが、先のわからない道なりの楽しみ方があると思つて米国臨床留学に向けて今日も日夜業務の傍らで勉強に励む毎日を送っております。

今日の前にあることに全力で取り組むことは大事ですし、そうして自分がやりたいことが見えてくるのかもしれない。しかし、一度立ち止まって自分が本当にやりたいことを考えて、その道にむかって軌道修正していく。一兎だけでなく、常に二兎を追っていくのも人生の選択肢としてあり

ではないかと思うのです。

臨床留学して何が得られるのか。私のやり方次第、と言ってしまつては呑気な研修プログラムと一緒になつてしまうので、米国で外科研修医のポジションを得た場合に得られるものをあげてみます。

- ① 五年間で七五〇件の執刀経験
- ② 米国外科専門医としてのステータス（平均年俸四千万）
- ③ 外国人の奥さん、旦那さん、お友達（あなた次第）
- ④ テニスコート、プール付きの豪邸（あなた次第）

不純な動機ばかりですみません。きっと得難い経験になると信じて、自分の選んだ道を信じて頑張ります。新潟で外科医としての経験を積ませていただいたご恩は忘れません。毎年運動会の際にはマラソンとリレーを走りに帰国しますのでそのためのトレーニングも欠かしません。おじさんになつても、戦力になれるよう頑張りますので未来の庶務幹事の皆様よろしくお願いいたします。長々と駄文を弄しまして失礼いたしました。これで私の留学レポートを終わらせていただきます。

（平成二十六年入会）

